

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

【学力調査結果の概要】

国語A B両区分、算数A B両区分に改善が見られました。「国語・算数の勉強は好き」と感じている子どもが多くみられ、「国語の授業で、自分の考えを話したり書いたりしている」や「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思う」項目で肯定的に回答している児童の割合は全国平均を上回っています。これは、これまでの習熟度別指導や問題解決的な学習、話し合い活動を重視した取組みによる成果であると考えています。

理科については、前回(H24)より改善が見られませんでした。特に、理科に対する興味・関心が低く、自然の中での遊びや自然観察の体験が少ないことと相まって、理科の授業で学習したことを生活の中で活用することの意識が低い傾向が見られます。自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てたり、得られた結果から自分の考えを見直したりする指導が不十分であったと考えられます。

<国語A：主として知識>

(成果)

- 漢字を正しく読むことは相当数の児童(96.8%)ができていて、反復練習の成果です。
- 説明する文章の書き方の工夫として、具体的な事例を挙げて文章を書くことは、相当数の児童(95.1%)ができています。これは、授業の中で、自分の考えを書いたり発表したりする活動を多く取り入れている成果であると考えています。

(課題)

- ▲文の中における主語を捉えることに課題があります。
- ▲新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉えて読むことに課題があります。
文法や表現の工夫に取り組んでいく必要があります。

<国語B：主として活用>

(成果)

- 目的に応じ、中心となる語や文を捉えて読むことは、相当数の児童(92.7%)ができています。
- 登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読することは、全国に比べて高い正答率です。
これらは、朝読やビブリオバトルなどの取組みの成果であると考えています。

(課題)

- ▲目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことに課題があります。
- ▲文章と図とを関連付けて読み、目的に応じて文章の言葉を適切に引用し、自分の考えを書くことに課題があります。文章と図表やグラフなどとの関係やその効果を捉えることができないように指導していく必要があります。

<算数A：主として知識>

(成果)

- 式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することは相当数の児童(92.7%)ができています。
- 単位となる小数のいくつ分で、小数の大きさを表すことは、全国に比べて高い正答率です。これは習熟度別指導等で、発表する機会を多く設定している成果であると考えています。

(課題)

- ▲分度器を用いて、180度よりも大きい角の大きさを求めることに課題があります。
- ▲示された三角形が二等辺三角形になる根拠を円の性質と関連付けて判断することに課題があります。これは、どのような図形の性質が用いられているかを見いだす指導が不十分であったと考えられます。

<算数B：主として活用>

(成果)

- 平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを正しく判断することは、全児童ができています。
- 作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶことは、全国に比べて高い正答率です。

(課題)

- ▲長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述することに課題があります。これは、示された考えを基に、根拠となる事柄を過不足なく説明する指導が不十分であったと考えられます。
- ▲示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることに課題があります。

<理科>

(成果)

- 打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察し分析することは、相当数の児童(92.7%)ができています。
- 月は1日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることの理解は全国に比べて高い正答率です。

(課題)

- ▲析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述することに課題があります。これは考察の場面で、予想や実験結果と結び付けながら考え、どのように変化したのかを捉える学習活動が不十分であったと考えられます。
- ▲メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方について課題があります。

<本校の学力向上に関する取組み>



アクティブ・ラーニングによる授業づくり
問題解決的な学習や体験的学習など、子どもの主体的・協働的な授業づくりをめざします。



習熟度別指導（少人数指導）
3～6年生の国語・算数で習熟度別指導を行い、きめ細かな指導の充実を図ります。



1分間スピーチ
話す・聞く力を高めるために、各学級や一小タイムのはじめに二人一組で実施します。



ICTの活用
子どもの学習意欲を高めるICTを効果的に活用した授業改善を図ります。



ビブリオバトル（書評合戦）
発表者がおすすめる本の紹介を聞いて、みんなで一番読みたくなった本を決定します。



一小タイム（自学自習力の育成）
スマイルチーム（縦割り班）で「100級ワーク」や「自ら学ぶノート」に取り組みます。

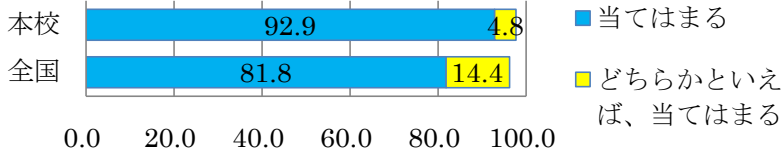
<今後の改善方向・取組み>

- ① アクティブ・ラーニングによる子どもの主体的・協働的な学びの授業づくり
どの子どもが生き生きと学べる授業スタイル「一小スタンダード」を構築します。
- ② 一人ひとりのよさを認める評価の工夫
通知表の見直しと授業中の言葉がけなど、肯定的評価を積極的に行います。
- ③ 話し合い活動を通して高めあう集団づくり
あらゆる場面で話し合い活動を取り入れ、認め合い高め合う集団づくりをめざします。
- ④ 家庭学習の充実と生活習慣の改善
100級ワークや自学自習ノートの活用により、自学自習力の向上を図ります。

【児童質問紙による学習状況調査結果の概要】

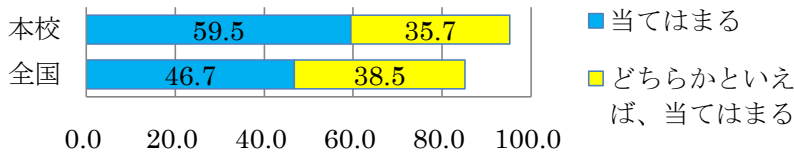
○全国と比較して、本校の児童の特徴として注目した項目について、その状況をお知らせいたします。

①いじめはいけないこと



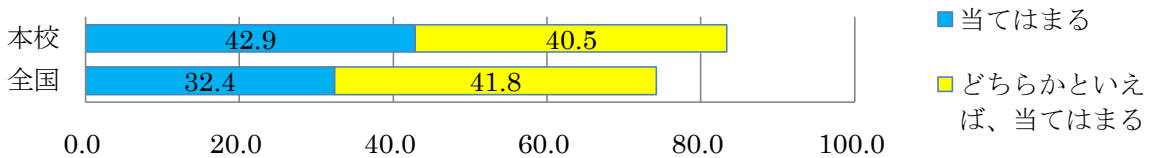
①規範意識の中で、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と強く思っている児童の割合が全国平均を上回っています。

②友だちと話し合う活動をよく行っていた



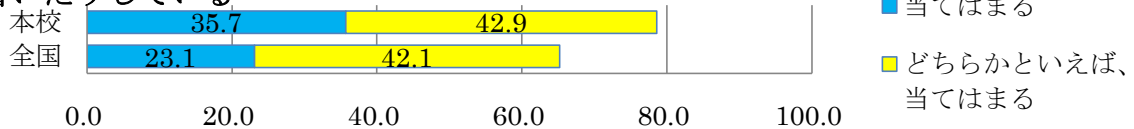
②の他に、「学級会の話し合い」や「友だちの意見を最後まで聞く」項目においても全国平均を上回り、これまでの取組みの成果であると考えています。

③自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた

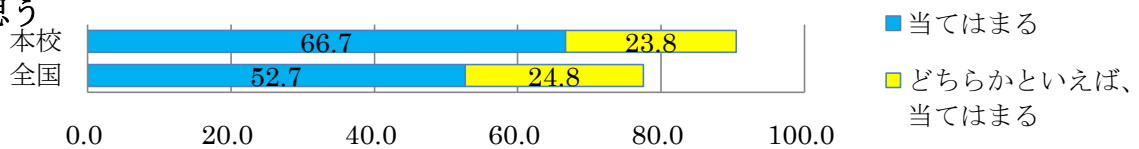


③は、「アクティブ・ラーニング」（課題の発見と解決に向けて子どもが主体的・協働的に学ぶ学習）に関する項目で、肯定的に回答している児童の割合は全国平均を上回っています。教科に関する意識調査においても、④⑤に見られるように積極的に取り組もうとする姿勢が伺えます。

④国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている

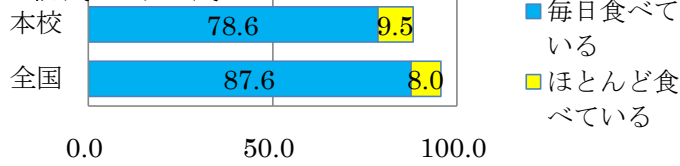


⑤算数の授業で新しい問題に出合った時、それを解いてみたいと思う



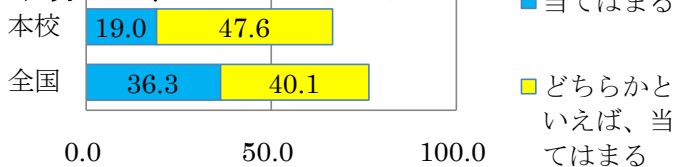
＜課題として受け止めている事項＞

朝食を毎日食べている



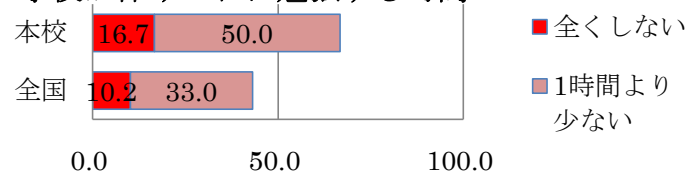
毎日の朝ごはんが子どもの発育を促し、学習意欲や体力、気力を高めます。本校児童の朝食摂取率は全国平均を下回り、課題です。

自分には、よいところがある



自尊意識の中で、最後までやり遂げてうれしかったという達成感を体験している児童は多く見られますが、全国に比べて自己肯定感の低さが目立ちます。

学校が休みの日に勉強する時間



本校児童の休日の学習時間が1時間以下の占める割合は全国平均を上回り、課題です。月～金曜日の家庭学習時間についても、同様の傾向が見られます。

＜保護者・児童のみなさんへ＞

＜児童のみなさんへ＞

みなさんは、学校での学習や運動に元気に取り組んでいます。授業中に自分の考えを積極的に発表したり、クラスやグループで話し合ったりしながら学習していることはとてもすばらしいことです。家庭学習で、復習や自学自習の時間を毎日決めて取り組むとっと力を伸ばすことができます。合わせて、テレビやゲームの時間を制限することも大切なことです。

朝食は毎日食べていますか。「早寝・早起き・朝ごはん」の規則正しい生活習慣を身につけ、健康な体で自分の持っている力を存分に発揮していきましょう。

みなさんは、どの子にもよいところがあります。自分のよいところをもっともって見つけて、自分の力をさらに伸ばしましょう。

＜保護者のみなさんへ＞

本校の児童は「ものごとを最後までやり遂げる喜び」を感じ、「どんな理由でもいじめはあってはいけないことだ」と考える、たくましくやさしい子ども達です。学校では、「わかる・できる」の結果の評価だけでなく、がんばろうとした意欲や取り組みの過程についても評価し、ほめて自信や意欲や高める指導をしています。ご家庭におきましても、些細な事でもお子さんをしっかりほめていただき、その子のよさを認めてあげてください。

また、子どもの学習意欲を高めるためには、家庭のかかわりが必要です。家庭学習や基本的な生活習慣はリズムある生活の中で育ちます。毎日同じことを同じように継続して取り組めるよう応援の声かけをよろしくお願いします。